

ピックアップニュース

Pickup NEWS



風鎮祭 2016



8月19日。
日付が切り替わったその瞬間、「目覚し」を皮切りに、風鎮祭の幕開けとなりました。

その歴史は古く、宝暦2年(1752年)、商人が、農家の労苦に感謝し、五穀豊穡を高森阿蘇神社に祈願したのが始まりといわれています。

例年の五穀豊穡祈願に加えて、今年4月に発生した熊本大地震による南阿蘇への深刻な影響を鑑み、慰霊と今後の復興への思いも込められました。また、同じ南郷谷に住む仲間として、南阿蘇村の住民にも元気になってもらいたいとの願いから、祭り1日目の19日(金)に、南阿蘇鉄道の高森・中松駅間を1往復無料で運行させた他、村民対象の優先駐車場を用意するなどして、南阿蘇村の住民を招待しました。駅の横では、チャリティバザーが行われ、復興祈願の思いが強いことがうかがえました。

交流センターでは、幼稚園・保育園の児童らの可愛い演目の後、今年九州大会にダブル出場を果たした高森中・高森高校の吹奏楽部による演奏で観客を喜ばせました。

祭りが始まり、最初の見どころは「総踊り」。熊本の最東端と最西端のつながりで、高森町と交流のある天草市は牛深からも「桃の会」の皆さんが参加し、元相ハイ節を踊り、皆を先導しました。総踊りの後は、お待ちかね「にわか」。町内の5つの地区の向上会が、稽古に稽古を重ねてきた、それぞれのスタイルの高森にわかを披露するため、移動舞台で町内各地を回りました。

五穀豊穡の恵みの雨か、花火

の前に突然の大雨。しかし、花火は予定通り決行し、雨空に大輪の花を咲かせました。

2日目となる8月20日(土)は、五穀豊穡の神事が高森阿蘇神社で粛々と執り行われました。

その後、各地区の子どもたちが強い日差しにも負けず、元気な手踊りを見せてくれました。

午後には、交流センターで、各種伝統芸能が人々を魅了するなか、中央四つ角では、日用品を用い、短時間で制作された14基もの多種多様な「造りもん」が終結し、町内を引き廻しされました。今年には災害被害からの再起や平和を願う造りもんが多く出揃い、その中でも旭通下組の「復興熊本不死鳥」が特賞に選ばれました。

今年の年番である上町向上会から横町向上会へと節刀渡しの儀を経て年番が移行されました。いよいよ大詰めを迎えた今年の風鎮祭。太鼓と三味線のお囃子と巧みな高森弁で表現する「にわか」で観客を最後まで楽しませます。見事、優勝したのは、下町向上会の「地獄へGO」とぼけた閻魔大王様が多くの笑いを誘いました。

2016年の風鎮祭も無事に終わり、夜更けには秋風が吹いていました。



問 高SPO事務局
☎62-2991



※スマホ、携帯からでも閲覧可能です。WEBページもぜひご覧ください。

http://www.takaspo.jp/

★第5回「くまレレ。」



7月10日(日)に、県内外のウクレレ愛好者が集う「第5回くまレレ。」が熊本市で行われました。今年には地震で被災した熊本市動物園の代わりに、その近隣のさくらんぼ保育園で開催されました。高SPOからも3名が参加し、レッスンの成果を披露。特別ゲストにウクレレ奏者の渡辺海智さんをお呼びし、くまモンや他県のマスコットキャラクターを交え、くまモン体操を皆で踊り、美しく優しいウクレレの音色に癒されました。

★ハンドボール日本代表が高森町にやってきた!



7月27日(水)、ハンドボール男子日本代表選手との交流会が高森町民体育館で行われました。前日、大分県で中国との試合を終え、熊本入りした代表選手。疲れも見せず、高SPOの子どもたちにも、丁寧に指導していました。初めて触れるハンドボールに心躍らせ、パス回しやミニゲームを体験した子どもたち。パスをしようにも、体の大きい選手が壁のように立ちはだかり、子どもたちは大苦戦。それどころか、ボールのように、選手に体ごと持ち上げられ、笑いまじりのゲーム運びに。その後、選手との写真撮影・サイン会と、子どもたちには思い出深いイベントになりました。